

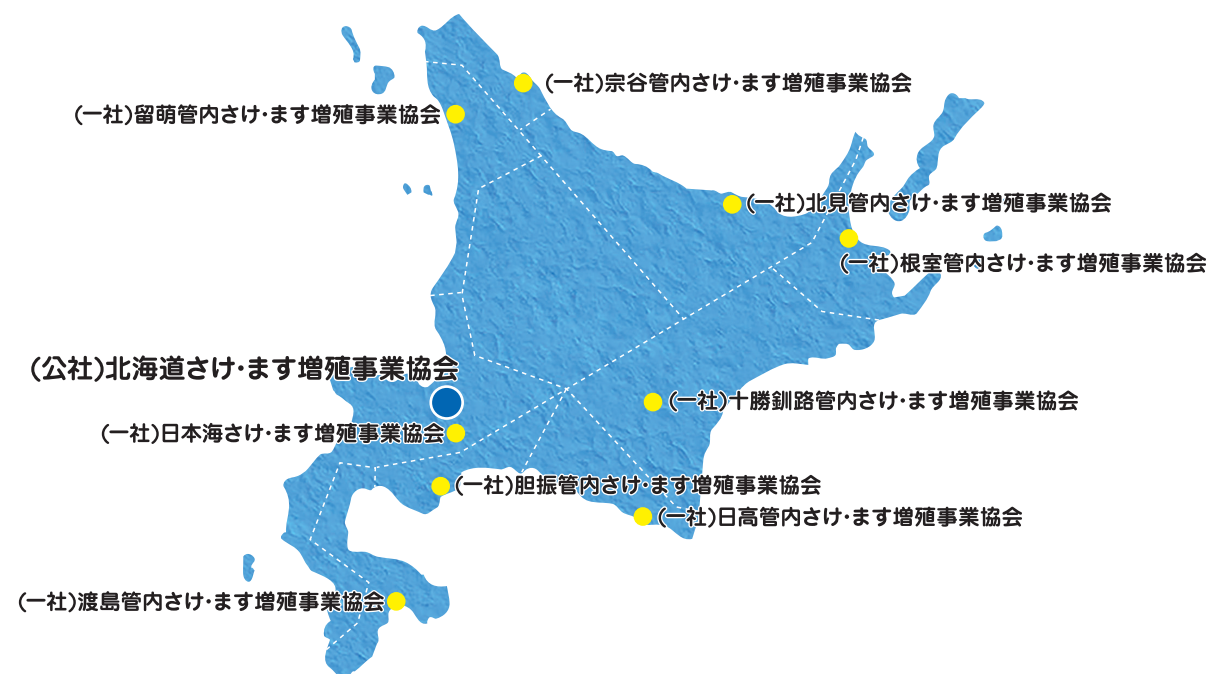
からだにも自然にもやさしい秋サケのことがわかるよ！

秋サケブック



公益社団法人 北海道さけ・ます増殖事業協会

私たちは
ちぎょ ほうりゅう
さけ・ますの稚魚を育てて放流しています



一般社団法人 日本海さけ・ます増殖事業協会
〒066-0028
北海道千歳市花園1丁目6番地
TEL:0123-26-2846 FAX:0123-26-2847

一般社団法人 渡島管内さけ・ます増殖事業協会
〒040-0065
北海道函館市豊川町11番9号 函館水産ビル3F
TEL:0138-22-4225 FAX:0138-26-5338

一般社団法人 胆振管内さけ・ます増殖事業協会
〒059-0642
北海道白老郡白老町字竹浦334番2
TEL:0144-87-6831 FAX:0144-87-6832

一般社団法人 日高管内さけ・ます増殖事業協会
〒057-0013
北海道浦河郡浦河町大通2丁目4番地
TEL:0146-22-6770 FAX:0146-22-6771

一般社団法人 十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会
〒080-0801
北海道帯広市東1条南2丁目1
TEL:0155-25-0722 FAX:0155-25-0725

一般社団法人 根室管内さけ・ます増殖事業協会
〒086-1634
北海道標津郡標津町北4条西1丁目1番13号
TEL:0153-82-3617 FAX:0153-82-1273

一般社団法人 北見管内さけ・ます増殖事業協会
〒093-0046
北海道網走市新町1丁目5番17号
TEL:0152-45-3101 FAX:0152-45-3102

一般社団法人 宗谷管内さけ・ます増殖事業協会
〒098-5805
北海道枝幸郡枝幸町幸町1番地 枝幸水産会館内
TEL:0163-69-2111 FAX:0163-69-2112

一般社団法人 留萌管内さけ・ます増殖事業協会
〒098-3312
北海道天塩郡天塩町字川口5788番7
TEL:01632-2-1607 FAX:01632-2-1655

公益社団法人 北海道さけ・ます増殖事業協会

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西7丁目1番地 水産ビル5F
TEL:011-271-5421 FAX:011-271-5423

ホームページでも情報発信しています
<https://sake-masu.or.jp>



日本の秋サケは元気いっぱい 自然の海を旅して育つんだよ。

1 ほかく 捕獲

9月から12月にかけて産卵のために生まれた川にもどってきたサケをつかまえます。

0~20日

2 さいらん じゅせい 採卵・受精

メスのサケのお腹を切り開いて卵を取り出します(採卵)。そこにすぐにオスの精子をかけて、受精させます。1尾のメスはだいたい3,000個の卵を持っています。

即日

3 かそう しゅうよう ふ化槽に收容

受精した卵は専用のふ化槽へ入れて、水温8℃前後の流水で育てます。

30日

4 はつがん か 発眼・ふ化

受精した卵は約1ヶ月で目(眼)がでてきます(発眼)。さらに1ヶ月で卵から生まれ(ふ化)て仔魚になります。

80日

5 しいく 飼育

仔魚は暗い建物の中で、さいのう(米糞袋)を吸収していきます。栄養を吸収終わると稚魚になり、エサを食べようになります(飼育)。

30~60日

6 ほうりゅう こうかい 放流・降海

3月~5月の、海の水温が暖かくなるころに稚魚を川に放流します(放流)。その後成長しながら海に出ます(降海)。

オホーツク海

8月~11月

川に放流されたサケの稚魚は初夏までに、オホーツク海に入り、秋までくらしします。

---> 幼稚魚の移動
---> 未成魚の移動
---> 成魚の移動

人工ふ化放流技術が秋サケを守っています。

北海道石狩市にある石狩紅葉山49号遺跡から、4,000年前の縄文人もサケを捕まえて食べていることがわかっていて、我々、人間は成長して秋に生まれた川にもどってくるシロザケ(秋サケ)を、森や川、海などの自然環境が大昔から自然の恵みとして利用させてもらっていました。でも、時代とともに開発や都市化が急速に進み、森や川、海などの自然環境が悪化して、秋サケは自分の力で子孫を残すことが難しくなりました。それを心配した人たちは残された自然環境を守り、自然を有効に活用する方法として工夫を重ね、ようやくとり着いたのが現在のふ化放流技術です。卵をふ化させ、稚魚(子どもの魚)になるまで手助けしてあげる技術です。その後は川を下り、海に出て元気にのびのびと育ちます。ですから、人工ふ化放流といっても、秋サケは天然育ちそのものなんです。

12月~5月

北太平洋西部に移動し、ここで冬を越します。

6月~11月

6月までにベーリング海へ移動します。

ベーリング海

アラスカ湾

12月~5月

アラスカ湾で冬を越し、春まで過ごします。6月にはベーリング海に戻り、この南北移動を繰り返して、成長します。

8月~12月

いよいよ成魚として成熟した群れが日本沿岸の川に帰ってきます。

秋サケがおとなになる年齢は、3~5歳で、いちばん多いのは4歳です。

北太平洋

資料：国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所



豊かな海には豊かな森林が必要です。

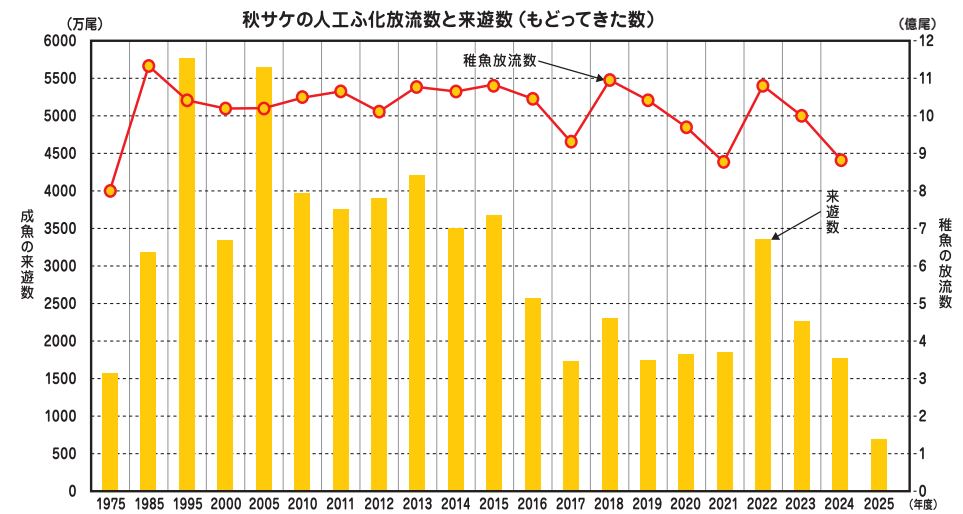
森や林はたくわえた水を栄養とともに川や湖そして海に供給するだけでなく、秋サケの人工ふ化放流にとっても水は欠かせません。河畔林(川の周囲にある木々)の落ち葉も、川や海の栄養源です。漁師さんをはじめ様々な人が山に木を植え続けています。美味しい秋サケやイクラがずっと食べられる協力してくださいね。

北海道に帰ってくるのは 100尾のうち2~3尾くらいです。

放流したサケの稚魚は、成魚になってどのくらい帰ってくると思いますか? だいたい10億尾の稚魚を放流して、成魚として帰ってくるのは1,500~2,000万尾くらいで、わずか2~3%(だいたい100尾に2尾くらい)です。自然の海を旅してきた秋サケは豊かな自然の恵みがギッシリつまった、とても貴重な魚です。でも、近頃は海的环境によって、帰ってくる成魚が少なくなっています。

人工ふ化放流は自然に無理をかけない自然環境にやさしい増殖方法です。

われわれが食べる食料としてサケを家畜のように1ヵ所で大量に育てようとすると、エサや健康を守るための薬が大量に必要となり、お金がたくさんかかり、自然環境に負担もかけてしまいます。人工ふ化放流は卵から稚魚になるまでの数ヶ月間を人の手で大切に育てる方法です。ふ化場から川に放流した稚魚は海に下って北の海に旅立ちます。自然のエサをとりながら成長する旅をつづけ、親魚(成魚)になると子孫を残すために故郷の川に帰ってきます。人工ふ化放流事業は国、北海道、市町村そして漁師さんが力を合わせて支えています。



(資料：国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所)

みずわくせい ちきゅう おく もの
水惑星・地球からみんなへの贈り物だよ

*カロリーは100gあたり。秋サケ以外はもも肉です。「文部科学省の五訂増補日本食品標準成分表」より



秋サケを守るための大切なルール



川のサケは とってはいけません！

北海道水産林務部水産局漁業管理課
フィッシングルール2026
Rule&Manner Web版▶



サケは、海で大きくなったあと、生まれた川にもどってきて卵を産みます。もし、川にもどってきたサケをつかまえてしまうと、卵を産むサケが減ってしまい、これから先のサケも少なくなってしまいます。そのため、日本では「川でサケをとってはいけない」というルールが法律で決められています。また、海ではサケを釣ることはできますが、守らなければならないルールがあります。特に川の近くの海(河口付近)では、サケを守るために釣りが禁止されている場所もあるので注意が必要です。

サケを釣ることのルールについてもっと知りたい人は、北海道庁が作った資料を見てみましょう。

四角い枠の中のQRコードを読み取ると、北海道の海でサケ釣りをするときや、ほかの魚を釣るときのルールやマナーを、わかりやすく学ぶことができます。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

サケと川を守るために みんなですること。

川や海でルールを守らずにサケをつかまえている人を見つけたときは、自分で注意せず、家族や先生、近くの警察の人などに知らせましょう。

また、川にはサケだけでなく、たくさんの魚や生き物たちがくらしています。川にゴミをすてたり、水をよごしたりすると、生き物たちが安心してくらせなくなってしまいます。これからもみんなでルールを守って、きれいな川と元気なサケを守っていきましょう。



秋サケ Q&A



Q1.

秋サケとサーモンは同じなの？

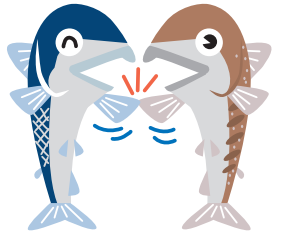
サケ(鮭)を英語で言うとサーモン (Salmon)で、サケとサーモンは言葉の意味では同じです。でも、サーモンの名前で売られている魚のほとんどはノルウェーやチリ、カナダなどの国で養殖されたアトランティックサーモン(大西洋鮭)のことで、秋サケとは違う種類のサケです。



Q2.

サケとマスはどう違うの？

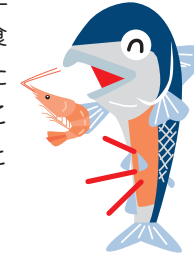
秋サケ(シロザケ)はサケ属のなかまで、他にカラフトマス、サクラマス、ベニザケ、ギンザケ、マスノスケ、ニジマスも同じなかまでです。生物学的にはサケとマスにははっきりした区分はなく体の形や生活のしかたのちがいがなどで区分されているわけではありません。



Q3.

秋サケは赤身の魚なの？

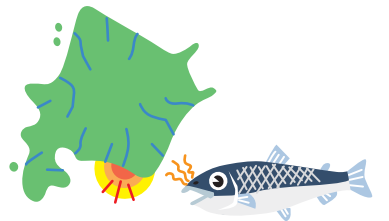
店で売られている秋サケの切身を見ると赤いので、赤身の魚とってしまう人もいますが、実は白身の魚です。サケの身の色が赤いのは、自然のエサとして食べているオキアミ類やエビ類などに含まれるアスタキサンチンという栄養素によるもので、卵(イクラ)の赤い色も同じです。秋サケが成熟して産卵のため川に上る(遡上)するころになると、エサを食べなくなり、身の栄養素が卵に移るため身の色がしだいに白くなります。このことから、白身の魚だということがわかります。



Q4.

秋サケはどうして生まれた川にもどれるの？

北太平洋では、太陽の位置や高さ、地球の磁気などを利用して生まれた川のある海域までもどってくると考えられています。まだ正確な答えはわかっていません。生まれた川の近くにもどってきた後は、川の特有の匂いをかぎ分けて、生まれた川を上り(遡上)します。ふ化場で生まれた秋サケは、ふ化場の水の匂いをおぼえていて、育った池(飼育池)にまで正確にもどります。(なかには、迷子になるサケもいるようですが)



Q5.

秋サケの稚魚を学校や自宅で飼うことはできるの？

飼いたい希望があれば、私たち(さけ・ます増殖団体)に連絡してください。学校からの申し込みでしたら、飼育するための器具(水槽やエアポンプ)を用意していただき、少量ですが卵か稚魚をお譲りして育てて放流していただくことができます(ただし、放流できる川は北海道庁が指定した川だけです)。個人の家庭からは直接の申し込みを受け付けていませんが、学校や社会教育団体などを通じてご相談いただくことはできます。詳しくは、当協会ホームページの「さけ・ます種卵等の供与に関する取り扱い」のページをご覧ください。 https://sake-masu.or.jp/breeding_policy/

